第３分科会	水戸市立第一中学校

第２学年　外国語（英語）科　学習指導案

指導者　教諭　久保田　奈緒
AET　David　Yoo

本時の視点	話すこと［発表］の言語活動の工夫

1　単元　Unit４　Homestay in the United States (NEW HORIZON English Course ２)

2　目標

来日予定の交換留学生にホームステイ先での生活を知ってもらうために，自分の家での生活の様子やルールなどについて，事実や自分の考え，気持ちなどを整理して，相手に伝わりやすいように話すことができる。

3　関連する学習指導要領における領域別目標

話すこと［発表］	イ　日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

4　単元の評価規準

	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	＜知識＞	＜技能＞		
話すこと［発表］	have to,must,動名詞などを用いた文の意味や働きを理解している。	自分の家での生活の様子やルールなどについて,事実や自分の考え，気持ちなどを,have to，must,動名詞などを用いて話す技能を身に付けている。	交換留学生にホームステイ先での生活を知ってもらうために，自分の家での生活の様子やルールなどについて，事実や自分の考え，気持ちなどを整理して，相手に伝わりやすいように話している。	交換留学生にホームステイ先での生活を知ってもらうために，自分の家での生活の様子やルールなどについて,事実や自分の考え,気持ちなどを整理して，相手に伝わりやすいように話そうとしている。

5　単元について

（1）　教材観

本単元では，生徒のアメリカでのホームステイについて扱っている。本文では，ホームステイに臨む際のアドバイス,家庭内のルール,ホームステイ中に感じた問題点,ホームステイでの体験談などを通して，習慣や文化の異なる環境での生活やマナー，コミュニケーションの大切さや難しさについてふれられている。異なる生活習慣への理解を深めるとともに，異文化理解についても考えるきっかけにもなる単元である。

また，本単元では，have to，must，動名詞を新出文法として扱っている。言語活動における場面の設定を通して，外国人に日本の生活習慣やマナーを伝えるためだけでなく，日常会話についてより幅の広い表現の定着が図れると考えている。

（2）　生徒の実態（在籍　35 名）

本学級の生徒は学習に対して意欲的な生徒が多く，授業中の発言も多い。言語活動においても活発にやり取りを行っている。間違いを恐れず，完璧な英語でなくても，伝えようとする気持ちを大切にしながら学習に取り組む生徒が多くみられる。このことは日々取り組んでいる Small Talk の成果だと考えられる。６月に実施した「英語に関する意識調査」では，英語による「発表」について，発表自体に抵抗を感じることなく,意欲的に取り組むことができるが,即興的に行うことに関しては,自信をもてない生徒が多い。

英語に関する実態調査　調査人数　35名　令和３年６月３日実施
１．英語で自分の好きなことについて５つ以上言うことができますか。
「はい」18名　「どちらともいえない」14名　「いいえ」３名
２．英語の時間に，自分のことについてみんなの前で発表できますか。
「即興でできる」３名　「少し考える時間があればできる」12名
「原稿を作れば，覚えてできる」12名　「原稿を作って見ながらできる」５名
「原稿作りを手伝ってもらえれば，見ながらできる」３名
３．英語の時間に，日常的な話題についてみんなの前で発表できますか。
「即興でできる」２名　「少し考える時間があればできる」６名
「原稿を作れば，覚えてできる」18名　「原稿を作って見ながらできる」６名
「原稿作りを手伝ってもらえれば，見ながらできる」３名

（３）　指導観（本分科会テーマについて）

本分科会では，「話すこと[発表]」の言語活動の工夫について研究を進めてきた。

これまで，プレゼンテーションを通した話す活動を充実させるために，その発表内容に対する即興的なやり取りについて特に力を入れて指導をしてきた。また，単元のはじめにルーブリックを提示して，見通しをもたせながらプレゼンテーション活動の場を計画的に繰り返し設定し，ルーブリックにより評価基準を明確にすることで，生徒は見通しをもって発表できるようになってきている。そして，発表内容についてのやり取りを充実させるために，継続して帯活動を行い，正確性を高めたり，内容を深めたりすることができた。さらに，「本当に疑問に思ったこと」や「さらに知りたいこと」について意欲をもって質問ができるように，実際に自分たちに関わりのある話題の設定の工夫もしてきた。

本単元では，来日予定の交換留学生にホームステイ先での生活を知ってもらうために，既習表現を活用しながら，自分の家での生活の様子やルールなどについて相手に伝わりやすいように整理して話すことができるようにすることを目標としている。留学生に，事前に「気になっていること」や「してみたいこと」等を動画付きメッセージで送ってもらい，それを共有することで，生徒にとってより現実的かつ必要性のある課題を設定することができると考える。生徒が意欲をもって外国の人に自分の考えなどを説明できるようにしていきたい。また，指導と評価の計画にもとづいて Small Talk 等で既習表現を繰り返し使用する場を設けることで，単元終末のプレゼンテーション活動時に，積み重ね学習した内容を活用できるようにしていきたい。さらに，発表時には原稿に頼りすぎず，より即興的に話したりやり取りしたりすることができるよう，メモを適切に活用しながら，聞き手を意識した活動ができるようにしていく。

６　指導と評価の計画

次	時	ねらい（■）主な言語活動（○）	知	思	態	評価の観点【評価方法】
1	1	■単元の目標を理解する。 ○自己目標を設定する。 ■天気予報を聞き，必要な情報を捉え，伝え合うことができる。 ○Small Talk “Weather” ○天気予報を伝える上で使われている単語の意味を理解する。 ○おすすめの場所について聞き取る。 ○英文を引用するための英語表現を学ぶ。 （The weather forecast says, “it’ll be sunny this weekend…” など） ○再度，引用しながら予定について伝え合う。 ○自分の考えた予定を書く。				本時では，学習状況を把握するが，記録に残す評価は行わない。

2	1	■対話を聞いて，引用するなどしながら，考えたことや感じたことなどを伝え合うことができる。 ○Small Talk　“My routine” ○ホームステイの際に必要なことについての対話を聞いて，引用しながら，聞き取ったことや考えたこと，感じたことを have to，don't have to などを使って，ペアで伝え合う。 ■ホームステイについてのアドバイスを読み，どんなことが必要か考えを伝え合うことができる。 ○自分の家でする必要のあることやしなくてもよいことについて have to，don't have to などを用いて伝え合う。複数の友達と伝え合うことで，一般的な日本の家庭の傾向についても考えを深める。 ○伝え合ったことを書く。				本時では，学習状況を把握するが，記録に残す評価は行わない。
	2	■対話を読んで，引用するなどしながら，考えたことや感じたことなどを伝え合うことができる。 ○Small Talk　“Weekly schedule” ○ホームステイ先でのルールについての対話を読んで，引用するなどしながら，自分の家でのルールについて伝え合う。				本時では，学習状況を把握するが，記録に残す評価は行わない。
	3	■ホームステイの際にしなければいけないことや，する必要がないことなどについて聞き取ったり，聞き取ったことを引用したりして，自分なりのスケジュールを立てて伝え合うことができる。 ○Small Talk　“School rules” ○対話を聞き，概要を理解する。 ○聞き取った内容を学習し，自分の予定を伝え合う。				本時では，学習状況を把握するが，記録に残す評価は行わない。
	4 5	■教科書本文の要点を捉えることができる。 ○Small Talk　“My schedule for this weekend” ○教科書本文を読んで，書き手の最も伝えたいことを捉える。 ○本文の内容を引用するなどしながら，困っていることに対してアドバイスを考え，まとまった英文で書く。				本時では，学習状況を把握するが，記録に残す評価は行わない。
3	1	■日本に来る予定の留学生が気になっていることや，してみたいことなどについて情報を集め，集めた情報をもとに，自分の家がホームステイ先として選んでもらえるよう，自分の家での生活の様子やルール，自分の家でできることや予定などについてプレゼンテーション資料を作成することができる。 ○ビデオレターを見て，内容を聞き取る。 ○得た情報を整理して，質問への答えや自分の家でできることなどのプランを考え，スライドを作ってプレゼンテーションの準備をする。				本時では，学習状況を把握するが，記録に残す評価は行わない。
	2 （本時）	■相手に伝わりやすい発表にするために，お互いの発表についてもっと知りたいことや感想などを伝え合うことができる。 ○グループになり，絵や写真を用いながら行う。 ○友達のプレゼンテーションにコメントや質問をして，さらによい発表になるようにする。				本時では，学習状況を把握するが，記録に残す評価は行わない。

	3	■交換留学生にホームステイ先での生活を知ってもらうために，自分の家での生活の様子やルール，自分の家でできることや予定などについて，事実や自分の考え，気持ちなどを整理して，相手に伝わりやすいように話すことができる。 ○グループで役割を決めて録画し合う。 ○今回のプレゼンテーションを振り返る。 ○後日，留学生に送る。	○	○	○	「『話すこと[発表]』の記録に残す評価」 （知識・技能） （思考・判断・表現） （主体的に学習に取り組む態度）【観察・ビデオ】

※記録に残す評価を行わない場合においても，ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。

7　本時の指導

（1）　目標

相手に伝わりやすい発表にするために，お互いの発表についてもっと知りたいことや感想などを伝え合うことができる。

（2）　準備

生徒用 PC，モニター，Chromecast，タイマー，ベル，振り返りシート，ワークシート，ビデオ

（3）　展開

学習内容・活動	指導上の留意点（◎本時の視点に迫るための手立て）	
	JTE	AET
1　あいさつをする。 2　前時の学習内容を確認する。 ・ビデオレターの内容について要点を知る。 3　本時の学習課題及び学習の流れを確認する。 プレゼンテーションをよりよくするために，友達のプレゼンテーションの内容について質問したり，感想を伝え合ったりすることができる。 ・Good model を確認する。 （発表およびやり取りの様子がわかるもの） ・ルーブリックを参照しながら，本時の自己目標を決定する。 4　プレゼンテーションを行う。 （1）生徒用 PC で前時に作ったスライドを見せながら発表をする。	・発表の目的をしっかり意識できるよう，やり取りを交えながら，全体で共有し確認をする。 ・相手意識をもってやり取りの内容について考えるなど目的・場面・状況を特に意識できるよう助言をする。 ・事前に録画したモデルを提示することで，本時の活動の見通しをもたせる。 ・スライドの準備をして，スタートの合図と同時に活動ができるようにする。	・相手意識を喚起するために，ビデオレターの内容について要点のみ伝える。 ・相手に伝わるプレゼンテーションを行うことができるように，ルーブリックの中でも BEST（Big voice / Eye contact / Smile /Try)の大切さを特に意識できるよう助言をする。
Hello, I'm very excited to hear that you're coming. You said you want to visit big cities in Japan. Our city is not a big city, but close to Tokyo. So you can go. There are some great shrines and temples in our city. So, if you come to my home, I can take you there. When you come into our house, you must take off your shoes. And you have to put your shoes together. I'll tell you about our family rule.　We have to have breakfast together at 6:30 a.m. every morning. That's very important time for us. I have to walk my dog every morning. If you walk with me, I will be happy. I think our family members are all friendly. So please feel free to ask us anything.		
・3，4人グループ ・1人 2.5 分（発表と質問，コメント含む） ・プレゼンターのルーブリックのよかった項目（内容・態度）に，「Like」ステッカーを貼る。	・指導の効率化を図るために、支援するグループを分担して机間指導をする。 ◎2回目の発表を，より充実した内容にするために，中間指導では発表の目的を再確認する。また，発表の内容ややり取りで適切であったもの，正確性を高めるために気を付けたい表現などを全体で共有する。	

〈コメントと質問の例〉 ・ Your volume is perfect. ・ You should make eye contact. ・ I like your slide. ・ I think the rule is important because your family can enjoy talking every morning. ・ Can your family speak English? You have to tell her about it.	・会話が滞っているグループに積極的に入り，会話をサポートをする。	
（２）相互発表の内容ややり取りをもとに，自分の発表内容について，再考する。 （３）グループを変えて同様の活動を行う。 ・３，４人グループ ・１人 2.5 分（１回目と同じ） ・プレゼンテーションの内容が実している者のルーブリックに「Like」ステッカーを貼る。	・座席表をモニターに表示し，スムーズにグループを変えられるようにする。	・発表の内容や表現で適切であったものを称賛する。
	・グループを変えてもう一度行うことで，中間指導や友達同士のアドバイスを生かし，より自信をもって発表することができるように助言する。	
	◎内容の充実についてルーブリックを確認し，目的意識をもって「Like」ステッカーを貼ることができるようにする。	
（４）代表のプレゼンテーションを全体で共有する。	・数人の代表のプレゼンテーションを全体に発表し，良かった点を全体で共有する。	・本時の活動について，発表の内容や異文化交流の点などを踏まえながらコメントをする。
	・「Like」ステッカーを多く得た生徒を代表として選出することで，自信をもって発表できる手立てとする。 ・アドバイスや意見をもらえたか，自分の発表をよりよくすることができたか，やり取りを通して確認する。	
５　本時の活動を振り返る。 ・本時の活動についての自己評価を行う。	・自己評価シートを用いて，振り返りをさせるとともに称賛し，次時への意欲につなげるようにする。	・全体に向けて称賛することで，次時への意欲につなげるようにする。